

ロシア－欧州のガス価格形成問題を巡る新たな動き

(財) 日本エネルギー経済研究所
常務理事 首席研究員
小山 堅

天然ガスの価格形成問題を巡るロシア・ガスプロムと欧州の大口需要家との交渉に関連して、興味深い発言がロシア側から発せられている。メディア報道によれば、ガスプロムの取締役役員の一で、戦略計画部門のトップである **Vlada Rusakova** 氏が、原則的に考えれば天然ガスの価格はその需給要因によって決定されることが合理的である旨の主旨の見解を表明した。

ロシアと欧州の間のガス価格形成のあり方を巡っては、経済危機が発生した 2008 年以降、売り手・買い手の間で激しい議論が続いてきた。ガス需要の低迷と安価なスポット LNG の流入に直面した欧州の主要な買い手（独 E.On など）は、欧州にとって域外最大の供給者であるロシア・ガスプロムに対して、ガス長期契約の販売価格決定方式を見直し、従来の石油製品連動型から天然ガスの市況をより反映する方式への変更を強く求めていた。石油製品連動で決まるロシア産のガス価格が需給緩和化で決まるスポットガス・LNG 価格と乖離して大幅割高になり、ガス購入側が経営の観点から危機感を強めていた。

もちろん、現時点ではガス輸出収入の大半を占める欧州市場向け販売は、ガスプロムにとってはまさに「ドル箱」であり、安易な妥協は決して許されるものではない。しかし、需給緩和という市場トレンドと欧州の主要顧客からの強い要請に押され、ガスプロムも妥協、長期契約の価格決定方式において、一部（15%程度との報道も）はスポット価格を反映する要素を取り込んだ、とも言われてきた。しかし、欧州需要家は、さらに一步踏み込み、100%ガスの市況（スポット価格）連動を求めていた、という経緯がある。

この要請に対し、ガスプロムの **Alexey Miller** 最高経営責任者（CEO）は、本年 6 月、ガスプロムは欧州向け天然ガス長期契約価格において石油製品価格連動方式を基本として維持していく方針を明確に述べていた。その意味で、今回の **Rusakova** 氏の発言は、組織としてのガスプロムによる正式決定ではないものの、最高経営責任者の 2 ヶ月前の発言とは大きく主旨が異なるものとなったのである。

なぜこうした発言がガスプロムの責任ある立場の役員から発せられるようになったのか。

原因は主に二つ考えられる。第 1 には、市場の需給環境に関する「現実」を直視し、ガスプロム側に認識変化が生じつつある、という可能性である。2010 年、欧州 (EU) においてもガス需要は回復し、対前年比 7.4%増の 4,925 億立米となった。しかし、供給の内訳を見ると、EU の LNG 輸入が前年比 16%増の 798 億立米となったのに対し、ロシアからのパイプラインガスは 2%減の 1,104 億立米の減少と、対照的な結果が現れている。いわば、価格ギャップの存在の下、2010 年を通じてもガスプロムの欧州市場向け販売は不振であり、市場シェアを減らす状況となっていたのである。2011 年以降、東日本大震災や MENA 危機の発生など、ロシアや欧州の天然ガス事情の将来に影響を及ぼす問題が発生しているため、先行きの予断は許されない。さりながら、現状に単に固執しているだけでは、欧州市場でのシェア低下など、ガスプロムにとって、そしてロシアの国益にとって看過できない問題がより深刻化する、との問題意識が強まってきたのではないだろうか。

この点に関し、ガスの価格形成はガスそのものの需給関係による方が基本的には合理的との見方を示した Rusakova 氏が、それを敷衍する形で、ガスと石油の需給状況が同様であるならば、ガスの価格が石油と連動しても問題は無いが、現実的には、ガス・石油共に需要が増加している中で、供給に課題がある石油と、むしろ供給拡大が顕著なガスとで差異があり、その市場環境の違いからそれぞれの市場に応じた価格形成が重要、との意味合いの見解を示している点も実に興味深い。

第 2 には、今年に入ってからガスプロムと欧州需要家の間の価格問題を巡る交渉・議論が難航し、打開の見通しがなかなか立たないところ、欧州の需要家側 (E.On、RWE など) がこの問題を欧州の仲裁裁判所に提訴するという強硬な手段に訴えていたことも背景にある。

先に述べたとおり、今回の「発言」はガスプロムの正式な決定というわけではないと見られる。すなわち、直ちに欧州向け長期契約価格がガス市況連動型に変更されるかどうか、いまだ未確定な部分は多く残っている。また、仮に石油製品価格連動型でなくなるにせよ、どのような内容のガス市況連動型になるのか、具体的なフォーミュラの内容そのものが重要であり、その点に関しては現時点では全く先は見えていないといってよい。

しかし、世界の注目を集めてきた、ロシアと欧州の間のガス価格形成問題に関して、新たな、注目すべき動きが現れていること自体が重要である。今後、欧州だけでなく、世界的に、そして日本において、ガスの役割がより大きく期待されている中で、ガスの価格形成問題とそれを通してのガスの価格競争力強化の問題は極めて重要な意味を持つてくる。わが国の関係者も、今後の欧州とロシアを巡る動きから目を離すことはできないであろう。

以上

お問合せ : report@tky.ieej.or.jp